

2017年 12月 27日

臨床データ利用のお願い

海南病院では、以下の研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報を研究目的に利用されることをご希望されない場合などお問い合わせがありましたら、お手数ですが以下の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

当院にて局所麻酔下胸腔鏡検査を施行した結核性胸膜炎の検討

2. 研究責任者

海南病院呼吸器内科 中尾 心人

3. 研究の概要

2014年の統計データにて日本の結核罹患患者数は10万人当たり15.4人であり、EUや北米の先進国に比べ3~5倍の罹患率があるとされています。新登録結核の50%以上が70歳以上と報告されていますが、これは結核既感染者が高齢化に伴い免疫能が低下し、再燃を起こしてくることが1つの要因と考えられています。また、今後も高齢化とともに高齢者結核患者は増加すると考えられています。

結核性胸膜炎は結核患者の約2割を占めるとされており、肺外結核の中では最多の病態です。過去に結核性胸膜炎に対する局所麻酔下胸腔鏡検査についての報告は散見されますが、胸水貯留指摘から胸腔鏡検査までの期間と胸腔鏡所見および診断率などについてはまだ十分には検討されていない状況です。そこで当院での結核性胸膜炎に関する診療の現状を明らかにし今後の課題を検討するために、胸腔鏡検査を施行し結核性胸膜炎と診断された患者の臨床的背景や検査所見について検討します。

具体的には2009年5月から2016年9月の間に、当院において結核性胸膜炎疑いで胸腔鏡検査を行われた方や、胸腔鏡検査後に最終的に結核性胸膜炎と診断された方を対象に、患者背景〔年齢、性別、喫煙歴、Performance status(PS)、症状、既往歴〕や胸水検査結果〔Adenosine deaminase(ADA)、リンパ球比率、Interferon- γ (IFN- γ)、抗酸菌塗抹・培養、結核菌群PCR〕、胸腔鏡検査結果（胸腔内所見、抗酸菌培養、結核菌群PCR）といった項目について診療記録をもとに後方視的に検討します。

当院での結核診療は地域の基幹病院として不可避であり、また結核性胸膜炎の診断に関する検討を行うことは、今後当院で結核診療を行っていく上で有用な情報が得られるものと思われます。尚、後方視的な検討であるため患者への不利益及び危険性は無いと考えられます。

4. 研究方法

①対象となる患者さん

2009年5月から2016年9月の間に、当院において結核性胸膜炎疑いで胸腔鏡検査を行われた方や、胸腔鏡検査後に最終的に結核性胸膜炎と診断された方。

②使用する試料等

残余検体：使用なし（追加検査等はいりません）。

カルテ情報：主に初診時（結核性胸膜炎疑いで受診された時）の採血や胸水検査結果、胸部画像所見、胸腔鏡検査結果、主訴、年齢、性別、喫煙歴および臨床経過などのカルテ記事記載内容を使用します。

5. 個人情報の取扱い

貴重な患者さんの個人情報は、「個人情報保護法」及び「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」など各種法令に基づいて管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

6. 問い合わせ先・相談窓口

JA 愛知厚生連 海南病院 呼吸器内科 中尾 心人
電話：0567-65-2511（代表）